

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	袖ヶ浦市立長浦中学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	互いの個性や立場を尊重しあえる集団づくり

1 実施計画に至るまでの経緯

本校の学区内には一つの小学校しかなく、生徒は9年間同じような人間関係の中で生活をしている。そのため、令和3年度に「伝え合う力を育む授業づくり・集団づくり」のテーマのもと、コミュニケーショントレーニングを活用した話し合い活動に取り組み、生徒同士、生徒と教員間で話やすい環境の構築を心がけてきた。その結果、授業等において話し合い活動がスムーズに行われるようになったため、現在もその活動を継続している。生徒と教員間でもより話やすい環境ができあがったことで、生徒から小学校時代からの人間関係の悩みを聞くことも増えてきた。その悩みの中でも、固定された人間関係によるいじめ被害があげられるようになった。令和4年度いじめの認知件数は14件と令和3年度の8件から大幅に増えている。また、いじめにいたらないまでも当事者以外の生徒が違和感を抱くような発言などをする生徒が散見する状態である。

2 活動内容

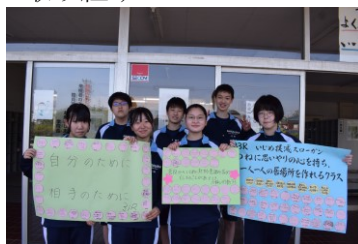
- (1) 対象者 1～3年全校生徒（275名）
- (2) 教科 道徳及び特別活動（生徒会活動、学級活動）
- (3) 活動の特色

生徒自らの手によるいじめ撲滅の活動は、令和4年12月に改訂された生徒指導提要にも記載されている発達指示的生徒指導及び課題予防的生徒指導の実践の場と考える。「多様性を認め、他者を尊重し、互いを理解しようと努め、人権侵害をしない人」に育つように働きかけたり、法やいじめ防止基本方針の理解を深めるとともに「いじめをしない態度や能力」を身に付けさせたりする好機と考える。

(4) 活動の時期および内容

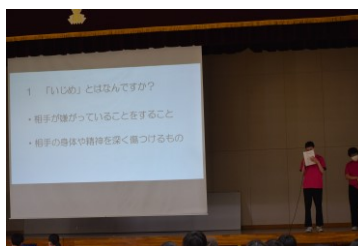
①道徳の時間を活用したいじめ撲滅への取り組み

- ・いじめを題材とした道徳の授業を行い、いじめに対する意見や考えを表現することを全校で行った。また、全校共通のワークシートや各個人の意見を付箋紙に貼るなどの工夫をして意見表明をしやすくした。



②いじめ撲滅にむけて全校集会の実施（5月に1回、12月に1回）

- ・5月にクラスで取り組んだいじめ撲滅に対する取り組みを全校集会の場で発表した。
- ・新生徒会が発足した12月に、5月に行っていたいじめ撲滅集会を振り返る集会を行い、意識高揚をはかった。



③いじめに関する相談室の設置

- いじめに関する相談室を校内に設けた。相談室にはプライバシーを保護するためのパーティションやラミネートで保護した掲示物を設置した。

④いじめ反対運動のシンボルとなっている「ピンクシャツ」を着用した委員会活動（年間6回）



- 生徒会生活委員がピンクのTシャツを着用して自転車の点検をおこない、いじめ撲滅の意識高揚をはかった。全クラスからピンクシャツ（いじめ撲滅）が見られるようにするため、自転車点検は中庭及びグラウンドで行った。

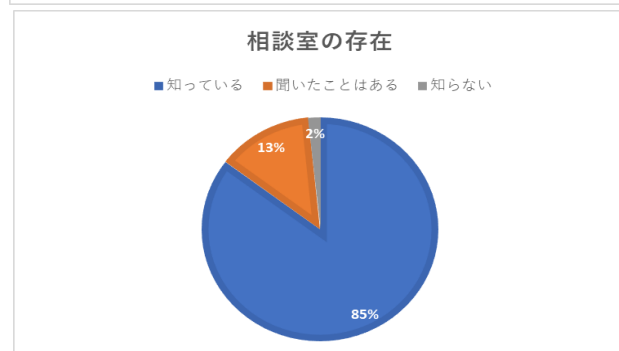
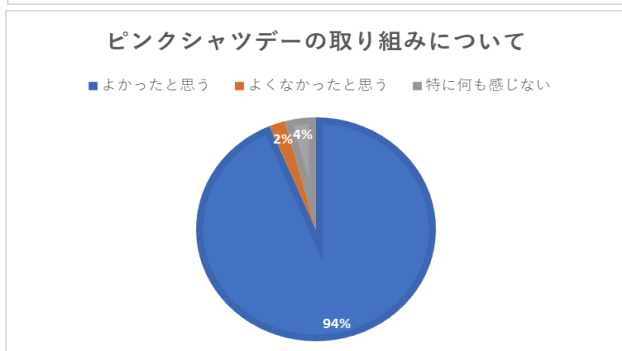
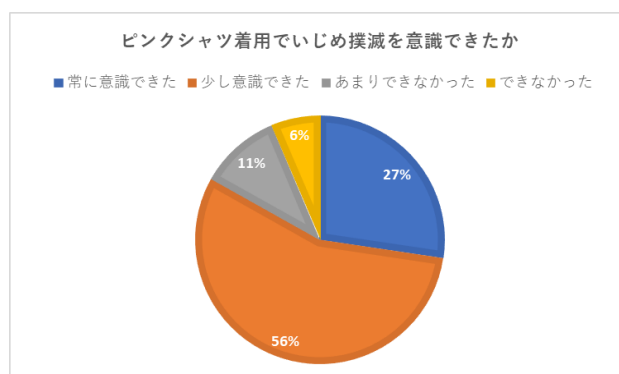
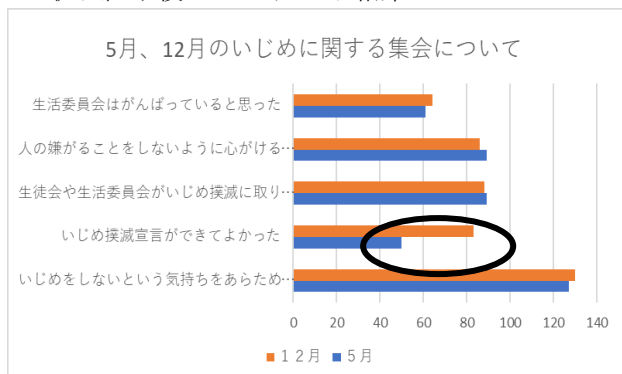
⑤「ピンクシャツデー」への取り組み（2月26日～28日）

- 2月26日～28日まで、生徒会の生徒がピンクシャツを着用して朝のあいさつ運動を実施し、いじめ撲滅の機運を醸成した。



3. 成果と課題

取り組み後のアンケート結果



いじめに関する全校集会の2回目を12月に実施したことで、いじめ撲滅宣言をより強く意識することができ、いじめ防止に寄与したと考える。また、年間を通じてピンクシャツを着用しての生活委員会の活動やピンクシャツデーの取り組みも、いじめ防止への取り組みとして有効であったと考えられる。

いじめに関する相談室の存在を知っている生徒の割合は85%であったが、実際に利用した生徒は5%程度であった。また、別のアンケートで不安や相談ごとを友人や担任の先生にするという生徒の割合が70%程度、両親20%程度であった。多くの生徒が友人や先生との間で良好な関係を築けてきていると考える。今後も継続して取り組むことが大切であると考えている。